

静岡市 洪水ひなん地図

【洪水・土砂災害ハザードマップ(興津川下流)】

他のハザードマップについて

静岡市では、このハザードマップの他にも河川ごとの『洪水ひなん地図』、地域ごとの『浸水ひなん地図』を作成しています。このほかにも『静岡市防災マップ』や『津波避難マップ』を作成しています。

●洪水ひなん地図

「洪水ひなん地図」は、対象河川とその流域に発生する洪水による浸水被害想定を地図上に示したものです。

●浸水ひなん地図

「浸水ひなん地図」は、対象河川とその流域に発生する内水による浸水被害想定を地図上に示したものです。

静岡市防災情報マップ

静岡市防災情報マップは、地図や画像を利用して、災害想定に関する情報をインターネットにより、わかりやすく公開するサイトです。








ハザードマップについて

このハザードマップは興津川が大雨によって増水し、堤防が決壊した場合に被害が想定される浸水箇所や、土砂災害のおそれのある箇所、避難場所等などの位置を地図に示したものです。

大雨の時には、雨の降り方や浸水の状況などに注意し、危険を感じたら、早めに自主的な避難を心がけましょう。

このマップを参考に自宅や通学先・通勤先などにおいて想定される災害の状況を認識し、避難経路や避難場所等を確認してください。また、家庭や学校、事業所、地域における防災・減災活動にご活用ください。

自助・共助・公助について

「自助」「共助」「公助」という言葉を知っていますか。災害の被害を最小限に抑えるためには、自助・共助・公助それぞれが連携し、災害への対応力を高めることが大切です。

自助

自分の身は自分で守る

自分の身を自分で守るための備えと行動を自助といいます。

- ・ハザードマップの確認
- ・非常時に必要となる物の準備
- など

共助

自分たちの地域は自分たちで守る

近隣住民の方々と協力し、地域を守るための備えと行動を共助といいます。

- ・自主防災組織の結成
- ・地域の防災訓練への参加
- など

公助

公的な機関の支援

市、警察、消防、県、国の行政機関、ライフライン機関等の公共機関、こうした機関の災害対策を公助といいます。各機関とも、災害発生からできるだけ早く応急対策活動にあたるよう、備えています。

大切なのは自助、共助、公助の連携

災害の直後に自分を守るのは自助の力です。自分ひとりでは対応できない状況になったとき、頼りになるのは共助です。同時に、自分が可能ならば共助に参加する意識が必要です。公助はその支援に限界がありますが、自助や共助では解決できない大きな問題に対応できます。これらの連携が、被害を最小限に抑えるために重要となります。


市からの避難の呼びかけ

災害時には市からの避難の呼びかけ(避難勧告等)に注意し、早めの行動を心がけてください。あなたの判断が家族の命を守る第一歩です。

警戒レベル	住民がとるべき行動	避難情報等
警戒レベル5	既に災害が発生している状況であり、命を守るための最善の行動をとる。	災害発生情報 (静岡市が発表)
警戒レベル4	指定緊急避難場所等への立退き避難(水平避難)を基本とする避難行動をとる。 ・災害が発生するおそれが極めて高い状況等となっており、緊急に避難する。	避難開始 ・避難指示(緊急) ・避難勧告 (静岡市が発表)
警戒レベル3	高齢者等は立退き避難(水平避難)する。その他の者は立退き避難(水平避難)の準備をし、自発的に避難する。	避難準備・高齢者等避難開始 (静岡市が発表)
警戒レベル2	避難に備え自らの避難行動を確認する。	洪水注意報 大雨注意報等 (気象庁が発表)
警戒レベル1	災害への心構えを高める。	早期注意情報(気象庁が発表)


避難は原則、危険性のない市指定の避難場所等へ避難する「**水平避難**」です。ただし、道路の冠水や、降雨等の状況により、移動することが困難だと判断する場合には、近隣の安全な場所(頑丈な高い建物や標高の高い場所)や「**垂直避難**」により、安全を確保してください。

水平避難



その場を立退き、近隣の少しでも安全な場所や避難場所等に避難すること(立退き避難)

垂直避難



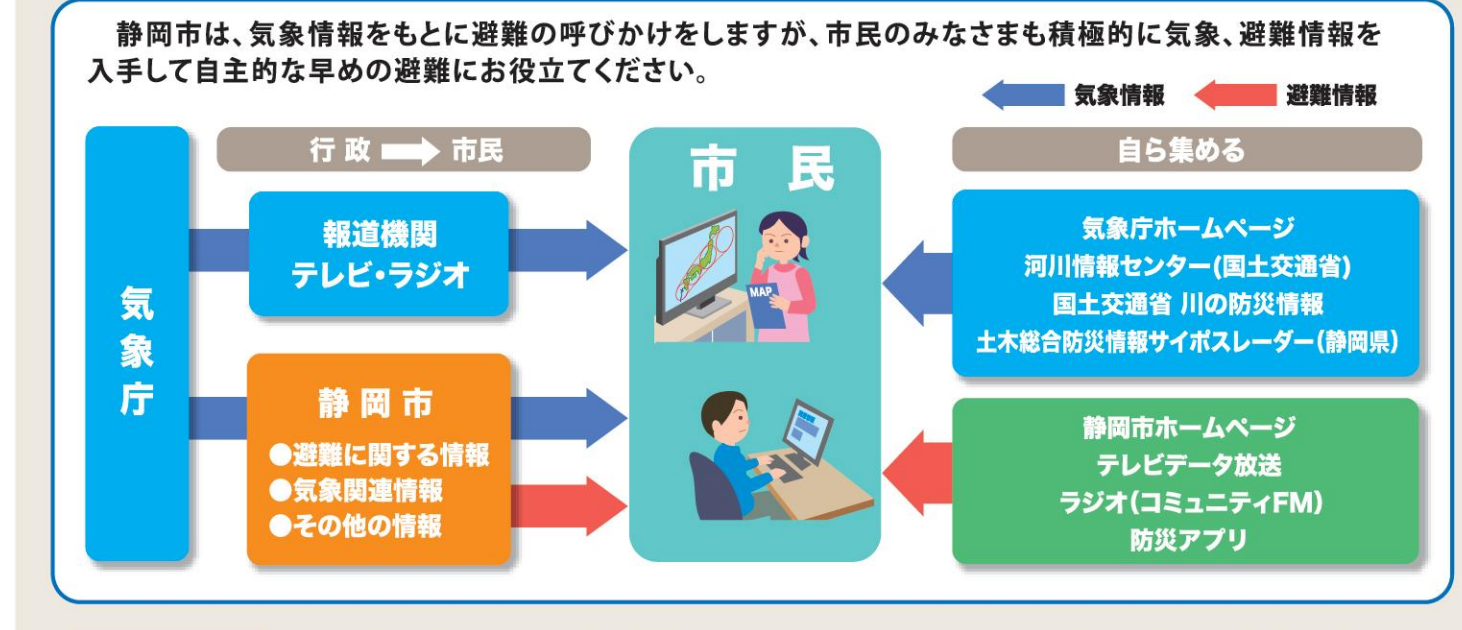
2階以上に避難すること(屋内安全確保)

市からの避難の呼びかけに対し、市民が自らの状況を総合的に考慮し、避難行動を選択しましょう。

※必ずしも、避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示(緊急)の順番で発表される限りではありません。ご注意ください。
災害時には自らの判断で避難行動を実施する必要があります。これらの情報が発表されていなくても、身の危険を感じる場合は避難してください。

情報の入手先

災害発生時の危険性が高まっている時または災害発生時には、市役所や消防、警察、メディアなどから流れる正しい情報を入手し、デマに惑わされないようにしましょう。



緊急速報メール

緊急速報メールは株式会社NTTドコモ・KDDI・ソフトバンク各社の携帯電話向け災害情報伝達手段で、静岡市内の携帯電話基地局エリアの範囲内に滞在する、緊急速報メール受信機能を持つ携帯電話に情報を配信するシステムです。(NTTドコモでは「エリアメール」と称します。)

静岡市防災メール

事前に登録していただいたメールアドレスに、静岡市から地震や気象関連情報、大雨に伴う道路の通行止め情報等をお知らせするメール配信サービスです。

- 静岡市防災メールへの登録方法 (https://www.city.shizuoka.lg.jp/000_001526.html)
- ①下記の登録用アドレスに空メールを送る。(右のQRコードも利用できます。)
- ②送信後、届いたメールにあるURLをクリックし、必要な項目を登録して完了。siz-entry@tokyoanpi.sbs-infosys.com



- 静岡市の災害情報 (https://www.city.shizuoka.lg.jp/630_000263.html)
- 静岡市道路通行規制情報「しずみInfo(インフォ)」(<https://shizuokashi-road.appspot.com>)

- 静岡県 緊急・危機管理情報/県内気象情報 (<https://www.pref.shizuoka.jp/kinkyu/>)
- 静岡県 土木総合防災情報サイトポスレーダー (<https://sipos.pref.shizuoka.jp/>)
- 気象庁 防災情報 (<https://www.jma.go.jp/jma/menu/menufash.html>)
- 静岡地方気象台 (<https://www.jma-net.go.jp/shizuoka/>)
- 国土交通省 川の防災情報 (<https://www.river.go.jp/kawabou/ipTopGaikyo.do>)
- 国土交通省 防災情報提供センター (<https://www.mit.go.jp/saigai/bosajoho/>)
- 中部電力停電情報(電気) (<https://teiden.chuden.jp/p/sizuoka.html>)

お問い合わせ先 静岡市役所 総務局 危機管理総室 危機管理課 電話：054-221-1241

気象庁による気象情報

気象庁は、災害による被害を軽減するため、気象警報・注意報などの防災気象情報を発表しています。

大雨注意報 洪水注意報

大雨、洪水によって災害が起こるおそれがあると予想される場合

大雨警報 洪水警報

大雨、洪水によって重大な災害が起こるおそれがあると予想される場合

土砂災害警戒情報

大雨による土砂災害発生のおそれがあると予想される場合

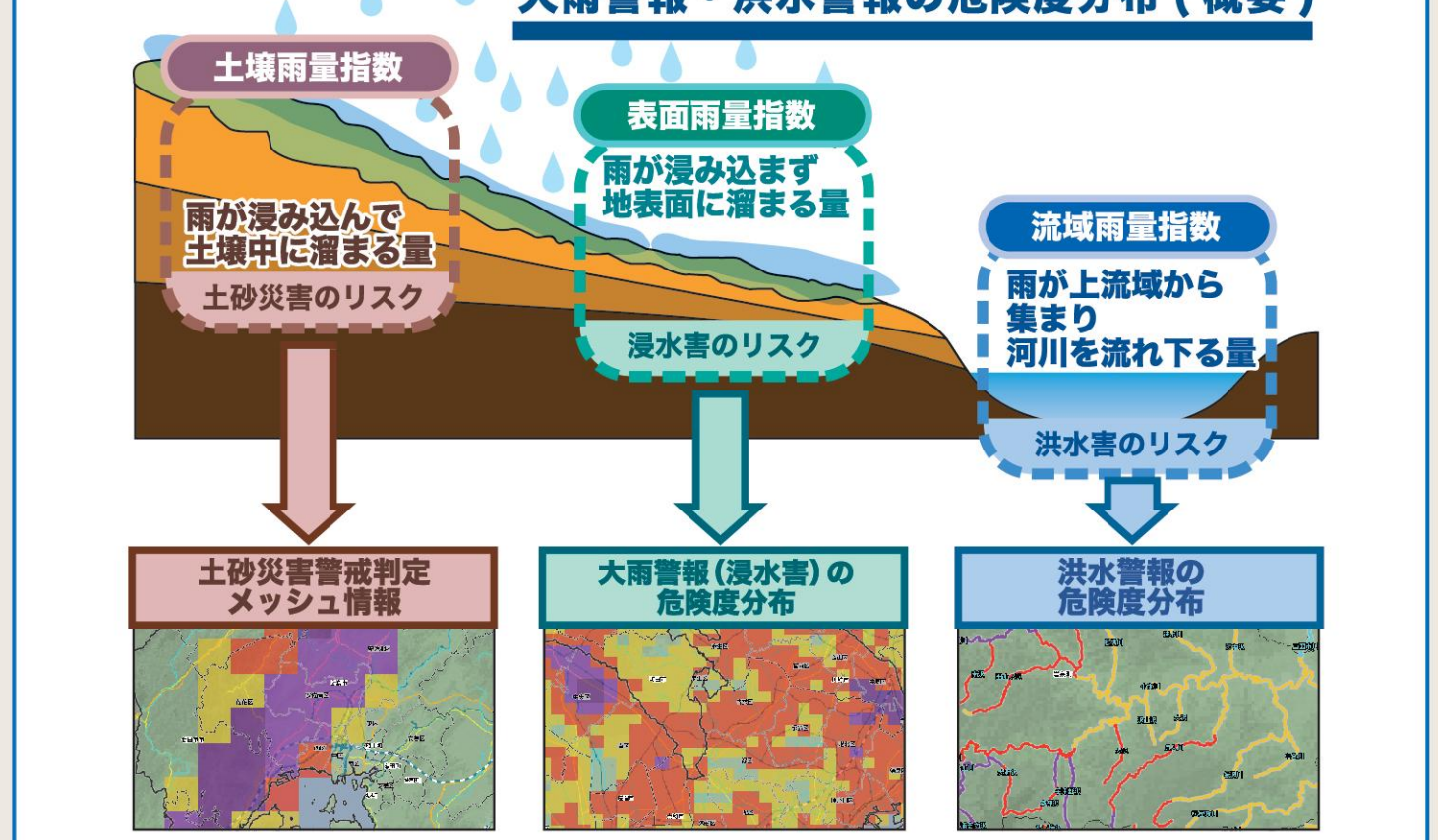
特別警報(大雨特別警報)

台風などにより、数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合

気象庁の危険度分布

降った雨は地中にしみ込んだり地表面を流れるなどして川に集まります。大雨時には、雨は地中にしみ込んで土砂災害を発生させたり、地表面に溜まって浸水害をもたらしたり、川に集まって増水することで洪水害を引き起こしたりします。

気象庁では、このような雨の挙動を模式化した土壌雨量指数、表面雨量指数、流域雨量指数として計算してそれぞれの災害リスクの高まりを土砂災害、浸水害、洪水害として「危険度分布」の提供を開始しました。



中小河川の洪水害や土砂災害の発生危険度が高まり、警報等が発表された際に、どこで危険度が高まるかを確認することができます。避難する際の判断にお役立てください。

土砂 <https://www.jma.go.jp/jp/doshamesh/index.html>
 浸水 <https://www.jma.go.jp/jp/suigaimesh/inund.html>
 洪水 <https://www.jma.go.jp/jp/suigaimesh/flood.html>

興津川の避難判断(水位危険度レベル)

川の水位が上昇するに伴って、はん濫の発生する危険性が高まります。興津川では、以下の各基準水位が設定されています。静岡市では、はん濫注意水位を超過し、更に水位の上昇が見込まれるときは避難準備・高齢者等避難開始、はん濫危険水位に達したときは避難勧告を発表します。

■基準水位観測所

河川名	観測所名	所在地(位置)	レベル1(水防団待機水位)	レベル2(はん濫注意水位)	レベル3(避難判断水位)	レベル4(はん濫危険水位)	レベル5(はん濫の発生)
興津川	興津	清水区興津東町	1.40m	1.70m	—	2.30m	—
興津川	和田島橋	清水区和田島	2.20m	2.60m	—	2.90m	—

洪水とははん濫について

洪水とは

洪水とは雨などにより川の水量が普段より著しく増えた状態をいいます。河川敷が水の下に隠れて見えなくなる、水位が堤防を越えるなど異常な増水をした時を「洪水」といいます。

はん濫とは

はん濫とは雨などにより住宅地や農地などに水が溢れることをいいます。川から水が溢れることを「外水はん濫」といいます。住宅地や農地に降った雨を排水することができず、そのまま溜まって溢れることを「内水はん濫」といいます。


土砂災害について

土砂災害の主なものに、急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)、土石流、地すべりがあります。

急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちるのが「急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)」です。次のような前兆現象があります。


- がけから小石がばらばらと落ちてきた
- がけが割れ目できた
- がけから水が湧いてきた



土石流

山腹、川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されるのが「土石流」です。次のような前兆現象があります。


- 山全体がうなっている(山鳴り)がする
- 川の水が濁ったり、流水が激しくなる
- 雨が降っているのに川の水が濁っている



地すべり

斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動するのが「地すべり」です。次のような前兆現象があります。

- 地面がひび割れた。一部が陥没あるいは隆起した
- 地下水などの水が濁った
- 池や湖の量が急に変わった



避難する時の注意

避難するときは、隣近所で声を掛け合い、なるべく複数人で避難するようにしてください。危険な箇所は避けて、遠回りでも安全な道を歩いて下さい。

安全な避難経路の確認



家庭や地域で話し合いながら、実際に歩いてみましょう。避難経路に危険な場所がある場合には、避難経路を見直しましょう。

動きやすい格好、複数での避難



動きやすい服装で避難しましょう。なるべく家族や隣近所とともに集団で避難しましょう。スニーカー等を履き、長靴は控えましょう。

流れのある場所に近づかない



水の流れがゆっくりと歩く程の速さでも、水深がひざまで来ると歩けないので近づかない。

浸水している場所は注意が必要



浸水している場合は側溝などに転落するおそれがあります。やむを得ず避難する場合は、手をつないで長い棒などで確認しながら進みましょう。

地下施設の浸水はとて危険です

アンダーパス・地下道の危険性



道路が冠水している状況を見出した場合には、不用意に通行せず、迂回などの危険回避を最優先で行ってください。

地下空間では避難が困難になります




30~50cm程度の浸水で、水圧により扉の開閉ができなくなります。また、地下にある電気設備などが浸水した場合には、停電が発生します。

日頃からの備え

お近くの雨水ますや側溝の点検・清掃を

雨水ますや側溝に泥や落ち葉、ゴミが詰まると、浸水の原因になります。家の近くの雨水ますや側溝の点検・清掃にご協力をお願いします。



過去の災害について

七夕豪雨による被害

昭和49年台風第8号は、日本本土へは上陸せず対馬海峡を通過し、日本海を北東へ進みました。このとき東海地方西部に停滞していた梅雨前線が刺激され、静岡市周辺では7月7日の午前11時から雨が降り始め、午後9時までは22mmと特に強い雨ではありませんでした。ところが、午後9時すぎになって突然バケツをひっくりかえたようなものすごい雨になり、7月8日午前4時まで連続した豪雨となりました。この間の最大の1時間降水量は84.5mmです。その後、雨の勢いは弱まり、やっと降りやんだ8日の午前8時までの半日間で、508mmという記録的な大雨となりました。これは24時間雨量では静岡地方気象台過去最大の豪雨となりました。

旧静岡・清水両市では各所で、がけ崩れ、道路の冠水、巴川をはじめ中小河川のはん濫などが続発し、家屋の倒壊、家財道具の流失、死者が出るなど痛ましい災害となりました。

この豪雨により死者27人、床上浸水約12,000戸、床下浸水約14,000戸という大きな被害をもたらしました。

